

令和2年7月22日



## 大豆情報 第2号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

本年の大豆は、6月末からの断続的な降雨により播種作業が大幅に遅れています。一般に、播種が遅れると開花までの日数が短くなり、十分な栄養生長期間が確保されないため、生育量が少なくなり低収となります。

今後は、ほ場の土壌水分や播種後の天候に留意して、確実に出芽・生育するように播種を行いましょう。

※播種後1日以内に大雨の予報がある場合、播種しない。

### 1 遅播きでの播種のポイント

- 土壌水分が適度になったら早急に播く。
- うね立て播種を基本とする。
- 生育量を確保するため7月中旬播きから播種量を増やす（右表参照）。  
※播種前に播種量の設定を確認する。
- 7月中旬播きから基肥を窒素成分で2kg/10a 施用する。

播種期	7月21日～31日	8月1日～5日
条間(cm)	60～70	50～60
株間(cm)	15～10	15～10
播種量	6～8	7～9
1条1mの目標出芽本数	20～25	25～30

**【冠水等で播き直しが必要な判断目安】**・・・健全株が7割以下と見込まれる場合

• 播種後出芽までに長時間冠水した場合、出芽の可能性が低い。また、冠水により株に泥が付着したままの場合、枯死する危険性が高い。

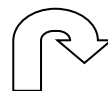
## 2 播種後の天気予報に応じて播種の深さを調整

- 土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する
- 適度な土壌水分がある場合、播種の深さは3cm程度を基本とする。
- 梅雨明け後、土壌が乾き、天気予報でしばらく降雨がない場合は、再度調整し、基準よりやや深く（5～6cm）播種し、鎮圧するように設定する。

## 3 排水対策

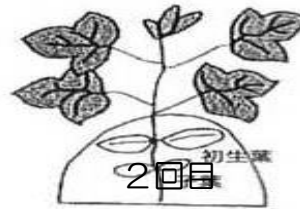
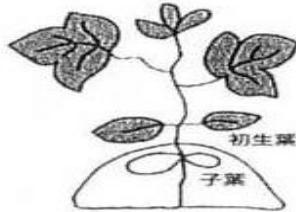
- 水の流れを作る。
- 周囲溝(深さ25～30cm)弾丸暗渠、畝立て溝を排水溝とつなぐ。

裏面に続く



## 4. 中耕・培土

中耕・培土は、雑草対策や倒伏防止、排水対策、不定根の発生促進など、多収栽培のためには、重要な作業です。下表の時期を目安に実施してください。なお、ほ場の表面配水を促すために中耕・培土後の明渠の整備を行いましょう。



1回目	本葉3葉期に子葉節まで培土（播種後約2週間目頃）。
2回目	本葉5葉期に初生葉節まで培土（播種後約3週間目頃）。

## 5. 雑草対策

中耕・培土でも対応できない雑草は、生育期除草剤で防除してください。雑草の種類によって除草剤の効果が異なります。草の種類を確認して防除を行いましょう。

除草剤名	対象雑草	処理時期	使用量	希釈水量 /10a
ポルト フロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	イネ科雑草 3～10葉期 収穫30日前まで	200～ 300ml	100ℓ
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 収穫45日前まで	100～ 150ml	100ℓ
アタック ショット 乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) 但し、収穫45日前まで	30～ 50ml	100ℓ

※ 周辺に水稻ほ場がある場合は、水稻にかからないように注意してください。

※ アタックショット乳剤は散布後、一過性の薬害が生じる。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ①散布前に必ずラベルを確認
- ②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース）を洗浄
- ④防除履歴の正確な記帳

